

# 監視から オブザーバビリティへ

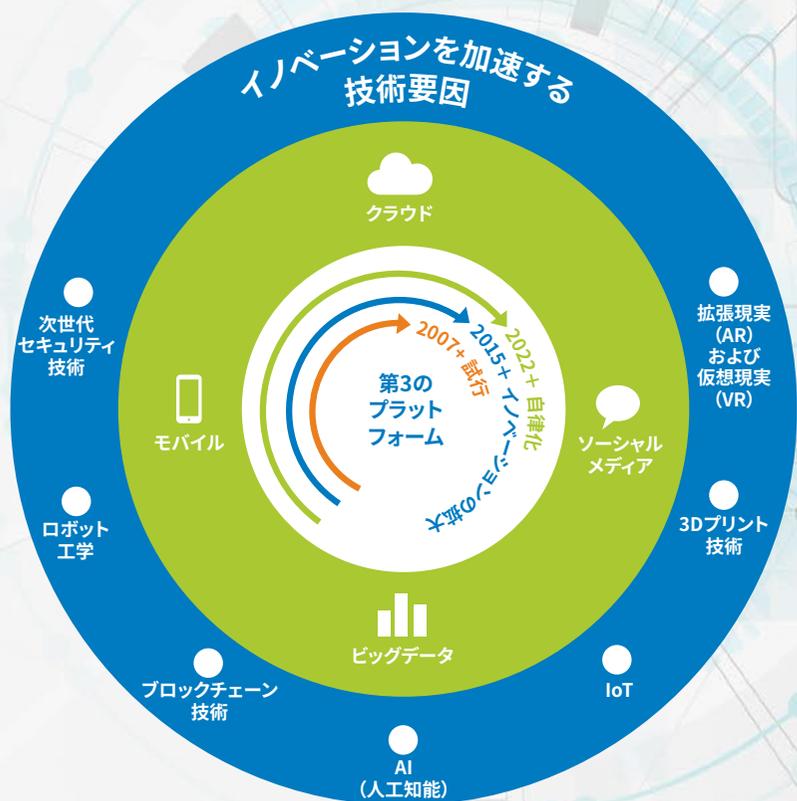
デジタルビジネスのための  
アジャイルIT運用の実現

An IDC InfoBrief, sponsored by New Relic  
2019年11月



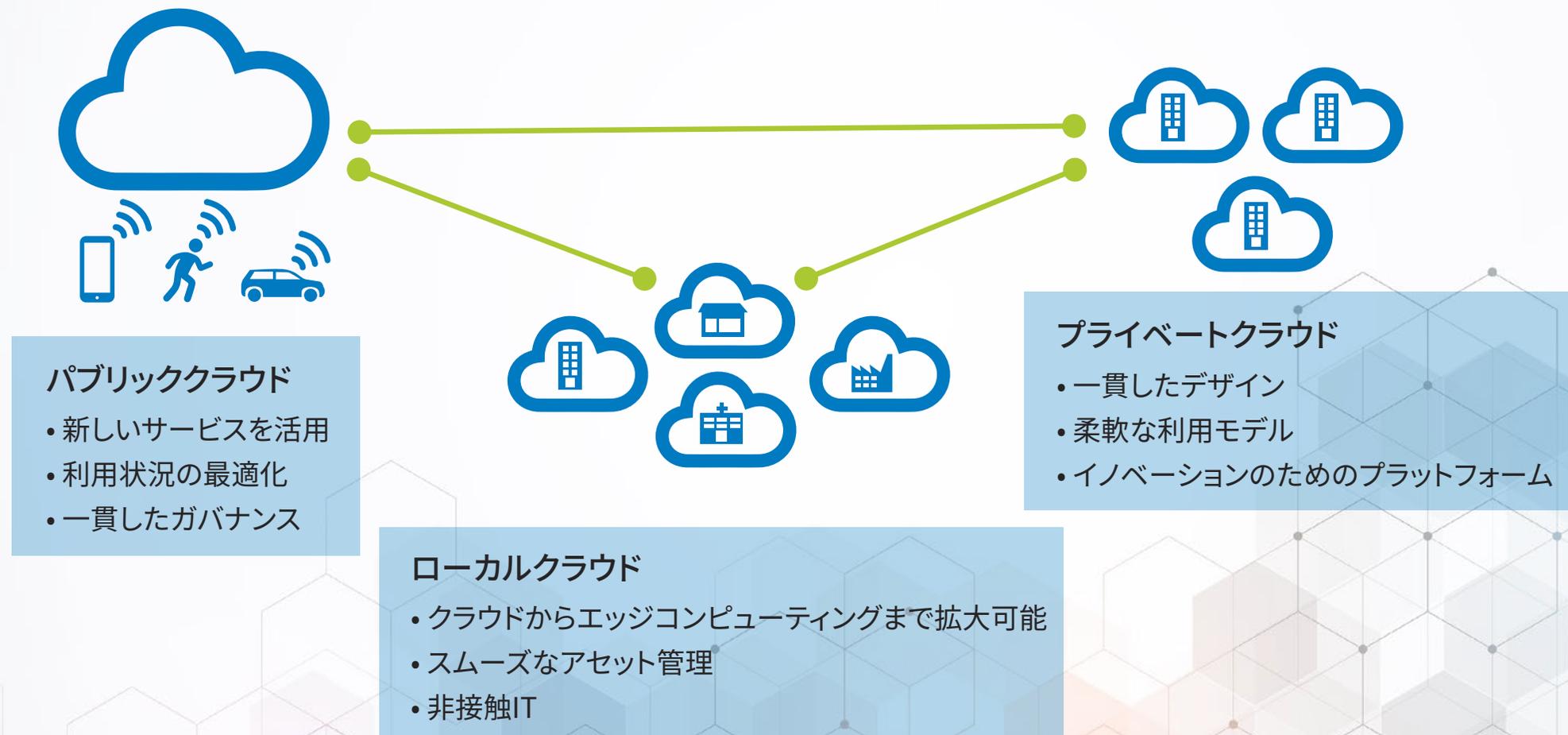
Document ID: US45610519BRO1

# 要約(エグゼクティブサマリー)： デジタルビジネスの成功を左右するのは スピーディで判断力に優れたIT運用



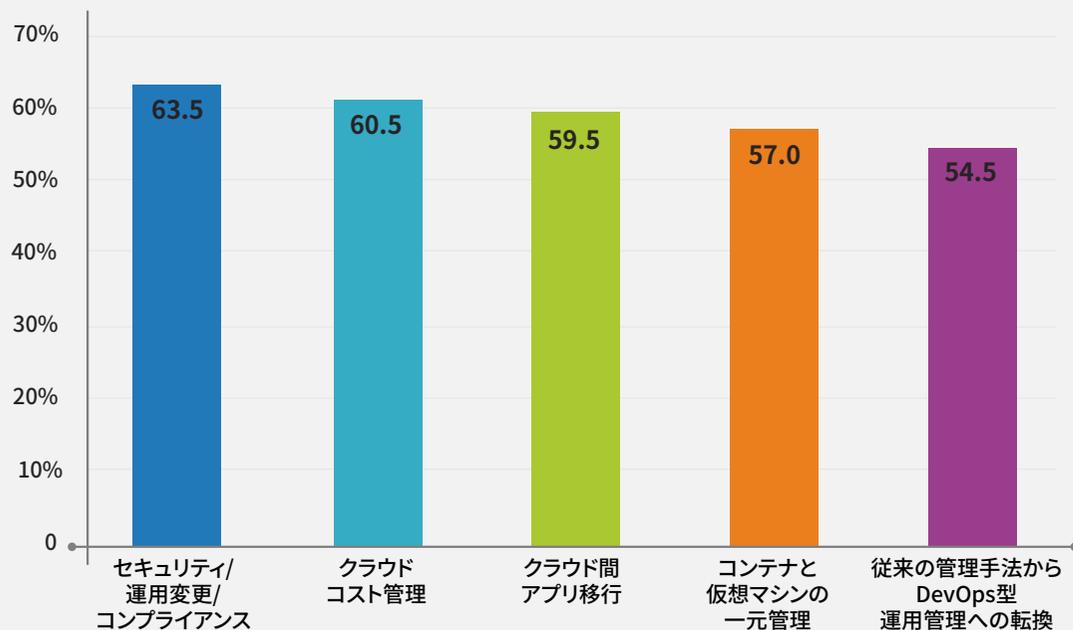
- DevOps (開発運用)、AI/機械学習、マルチクラウド、自動化によって、**デジタルイノベーション**が加速している。
- アプリケーションやインフラストラクチャは、常に**変化**している。
- IT運用、開発、ビジネスチームのすべてで新たな**コラボレーション**プロセスが求められている。
- 包括的な**オブザーバビリティ(可観測性)**とプログラマビリティを備えた優れたIT運用が、DevOpsの成功を左右する重要な要因である。
- IT運用のリーダー企業は、次世代の**SaaSベース**の可視性と制御技術に投資している。

# 進化するマルチクラウドの展望が ITインフラストラクチャ環境を変える



# コンテナとKubernetesの採用がマルチクラウド管理の優先事項に

コンテナとKubernetesの使用により発生し得るマルチクラウド管理への重大な影響



企業のクラウド管理者は、コンテナベースのインフラストラクチャの影響を考慮した計画を立てる必要がある

- 運用プロセスと管理ツールの統合
- クラウド管理へのプログラマティックなソフトウェア起点アプローチ
- AIを活用した効率的な分析への取り組み
- SREとクラウドCOE(中核的研究拠点)の使用率を向上し、リスクを管理しながらコストとパフォーマンスを最適化

n = 200  
複数のインフラストラクチャクラウドを使用する、  
米国を拠点とする企業のITに関する意思決定者(複数選択可)  
出典 IDC Multicloud Management Survey, March 2019  
(IDCマルチクラウド管理に関する調査、2019年3月)

# オープンソースコミュニティがイノベーションを加速



• 開発者は、イノベーション、新しいテクノロジーへの迅速なアクセス、ベストプラクティスを求めてオープンソースコミュニティに注目している。



• APIがツールチェーンとパイプラインの統合を促進する。



• 大規模な本番環境では、商用サポートのあるオープンソースが好まれる。

## HOW

- 新しいシステムやクラウド管理ソリューションにオープンソースの適用を選択肢に入れる
- 主要なオープンソース版と商用版のメリットとデメリットを評価する
- 社内研修や資格取得に投資する
- コミュニティへの取り組み度を決める

## WHY

- 企業システムとクラウド管理ソリューションのイノベーションを促進
- 機能要件と開発規模に応じた統合、ポータビリティ、柔軟性、スケーラビリティの確保
- コスト削減
- ビジネスの加速

## WHO

- ITアーキテクトとIT責任者が企業の方向性を設定
- DevOpsチーム内のアーリーアダプター（初期採用者・革新者）
- IT運用チームによる本番環境の拡張性の担保
- リスク・コンプライアンス担当者によるライセンス管理

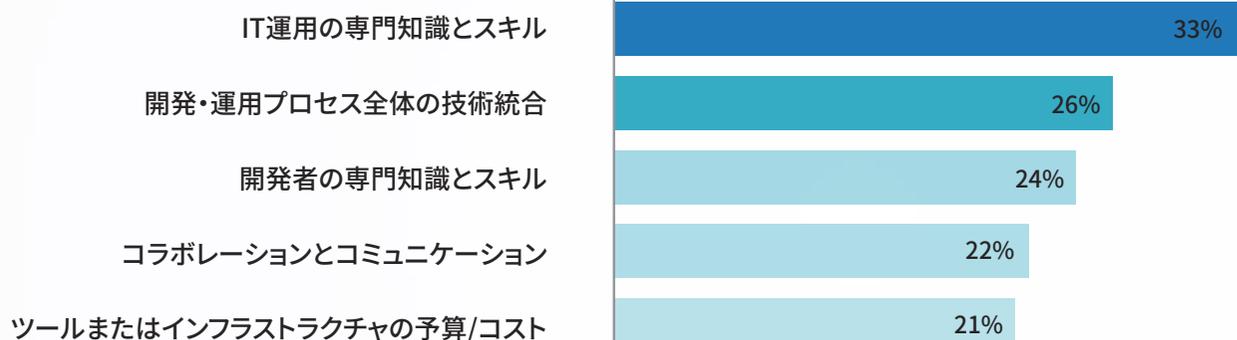
## WHAT

- 業界コミュニティが開発したオープンソースシステムやクラウド管理ソフトウェア
- 機能強化、サポート、トレーニングを加えた商用ライセンスの提供
- 商用ソフトウェア製品を有効にするためにオープンソースを使用
- ベンダーのサポートによるイノベーションと可用性の確保

出典：IDC PlanScope: Open Source Enterprise Systems Management Software Strategy (IDC #US41177016, April 2016)

# DevOpsが現状を打破する

DevOpsを導入する際の組織の課題を2つ挙げてください。



2019年時点で  
67%の組織がDevOpsを  
採用している

DevOpsソフトウェアツールの  
33%はパブリッククラウド  
サービスとして  
提供されている

正しいDevOpsの実行は、  
拡張性とスピード、判断力に  
優れたIT運用に左右される

n= 1,539

出典：PaaSView for the Developer (2019年4月) IDC

出典：Sep 2019 - Market Analysis Perspective: Worldwide DevOps Software - Doc # US4463951

# ソフトウェア定義によるプログラマビリティは、IT運用力を倍増させる



運用ツールと  
ワークフローは、  
ソフトウェア主導および  
ポリシー主導になる



標準化された  
再利用可能な  
自動化コード



複雑な  
DevOpsツールの統合



シンプルな運用環境による  
一貫したポリシー主導の運用確保と  
ツールの複雑さの軽減



頻繁な変更への迅速な対応



# いまIT運用に必要なコラボレーション

優先順位はチームごとに異なる



**ビジネスチーム**  
イノベーション  
デジタルトランス  
フォーメーション (DX)  
新たな顧客体験



**開発チーム**  
スピードと敏捷性



**IT運用チーム**  
ガバナンス、  
コンプライアンス、  
コスト



# 従来型の受動的なIT運用監視では 対応しきれない状況に



- 急速に変化するモジュール型のアプリケーションアーキテクチャには、動的なモニタリングと分析が必要。



- CI/CDやKubernetesは常にトポロジーを変更し、リソースを移行している。



- コンポーネントごとの指標ではなく、エンドツーエンドのアプリケーションとエンドユーザー体験に重点がシフトしている。



- チームを跨いだコラボレーションと可視性の共有が重要に。

# マルチクラウドのコスト、パフォーマンス、生産性に 重点を置いたこれからのIT運用の優先順位

2023年までに、組織にとって優先すべきIT管理事項は何か？



**87%**

クラウドコスト  
管理の改善



**84%**

アプリケーション  
パフォーマンスの  
向上



**84%**

ITスタッフの  
生産性向上



**83%**

マルチクラウド環境の  
統合管理



**81%**

主要インフラス  
トラクチャの  
一部としての  
コンテナ管理



**80%**

IT運用、開発、  
ビジネスチーム全体での連携、  
コラボレーションの改善

・ IT運用チームはDevOpsや  
ビジネス目標を理解し、連動を強化

・ ビジネスインパクトを重視

・ 自動化と分析を活用した効率性、効果の強化

IDC# US45086019 (2019年5月)

出典：IDC Enterprise Containers & Cloud Management Survey May 2019 (2019年5月 IDCエンタープライズコンテナおよびクラウド管理調査)

N=200 US IT Decision Makers with \$1+ Billion Annual Revenue (年収10億ドル以上の米国IT企業の実務担当者)

# IT運用のリーダー企業は新しいツールと戦略に投資を強化

## SaaS

IDCは、2019年から2023年までの世界のシステムおよびサービス管理SaaS市場の予測を上方修正。年平均成長率は26.3%を示している。<sup>1</sup>

## Automation

世界のIT自動化・構成管理ソフトウェア市場は、2018年の71億ドルから2023年には96億ドルに成長すると予測されている。<sup>2</sup>

## Analytics

IDCは、世界のIT運用分析ソフトウェア市場が2018年に29億ドルに成長し、2023年には45億ドルを超えると予測している。<sup>3</sup>

出典:

- (1) Worldwide System and Service Management Software as a Service Forecast Update, 2019–2023 (Aug 2019/IDC #US45259020) (世界のシステムおよびSaaS (Service-as-a-Service: サービスとしてのソフトウェア) の予測更新)
- (2) Worldwide IT Automation and Configuration Management Software Forecast, 2019–2023 (March 2019/IDC #US44889818) (世界のITオートメーションおよび構成管理ソフトウェア予測)
- (3) Worldwide IT Operations Analytics Software Forecast, 2019–2023 (Oct 2019/IDC# US45569519) (世界のIT運用分析ソフトウェア予測)

# オブザーバビリティ(可観測性)がミッションクリティカルに

## IT運用、開発、ビジネスチームの連携強化に必要なデータドリブンアプローチ:

ツールの簡素化、統合の強化、高度なAI/機械学習の適用がデータドリブンアプローチをサポート。

オブザーバビリティ(可観測性)を確保することは、すべてのパフォーマンスデータを一元化し、リアルタイムに表示できる状態を指します。これにより迅速な問題の特定と根本原因の発見・解決が可能となり、積極的なデジタルビジネスの最適化が実現されます。

クラウド、DevOps、コンテナ活用を見据える組織にとって、  
2023年までに必要かつ重要な組織やガバナンスの変更は何でしょうか？

48%

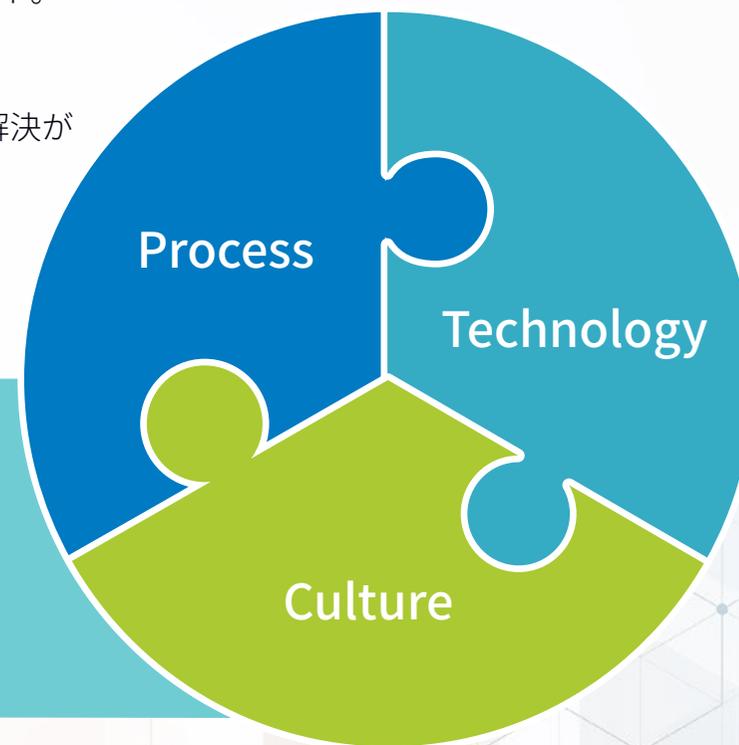


ビジネスKPI、成果観点での  
IT指標の再定義・明確化

41%



新しいビジネス/  
ITガバナンスプログラム、プロセスの導入



優れたIT運用チームは、共通のツールとプロセスを通じて俊敏性とコラボレーションを強化しています。

n = 200 年収10億ドル以上の米国企業を代表するエンタープライズITの意思決定者(複数選択可)  
出典: IDC Containers and Cloud Management Survey, IDC, May 2019 (IDCコンテナとクラウド管理に関する調査)

# New Relic ONE™

## オブザーバビリティプラットフォーム

### オープン

漏れなくすべてを計測

### コネクテッド

素早く理解し、  
効率的なアクションを促進

### プログラマブル

カスタマイズ可能な  
ダッシュボードの構築

[newrelic.co.jp](https://newrelic.co.jp)で始めよう